

タイにおける女性に対する暴力撤廃に取り組む NGO の役割と女性のエンパワーメント分析
The role of NGO which takes part in abolition of Gender Based Violence and women's
empowerment analysis in Thailand

大学院人間文化創成科学研究科
ジェンダー社会科学専攻 M2 市川 萌子

1. 要約

(和文)

開発において各国の改善すべき女性の状況として、女性に対する暴力の撤廃は上位を占めている。この問題に取り組み、暴力の被害を受けている女性を保護し、女性の自立支援を行うタイの NGO「女性の地位向上協会（Association for the Promotion of the Status of Women:以下 APSW）」を研究対象とし、NGO がどのように暴力の問題に取り組み、被害者である女性たちの状況を改善させているのか、APSW の提供するプログラムを通して女性たちが力をつけることによって得た変化の過程を考察した。本調査では、APSW のスタッフと、APSW から支援を受けている女性、過去に支援を受けていた女性にインタビューを実施したほか、ボランティアによる参与観察を行った。NGO スタッフにはタイ国内における女性に対する暴力の問題の現状や変化と、これまでどのように女性たちと向き合ってきたのか聞き取りを行った。ケース女性に対しては、APSW に来る前と後の変化と、APSW で受けているプログラムや活動について聞き取りを行った。

調査の結果として、NGO は長年の活動の蓄積もあり、あらゆる問題を抱えた女性を包括的に支援出来る体制や環境が整っていた。活動の上で、組織の理念や問題意識がスタッフに浸透していた。タイにおける今日の女性に対する暴力の問題は複雑化しており、組織は被害者を保護しケアするのみならず、暴力の廃絶に向けて、暴力の予防・啓発活動にも熱心に取り組んでいた。また、被害者に寄り添い行動することで彼女たちから信頼を得ていた。ケース女性たちは APSW に来て、様々なプログラムを受けることで、少なからず良い影響を受けていることが分かった。ソーシャルワーカーや他の女性との出会いで、勉強への意欲が湧き学校に行くことができた人や、職業訓練によって収入を得たことで施設を出て子どもと暮らすことを決意し、自立した人もいた。

(英文)

Situation of women should be improved by each country in the development, elimination of violence against women accounted for the top. I focused on APSW (Association for the Promotion of the Status of Women), which protects women suffering from violence and supports women's independence. And also, considered the process of

change that women have improved by improving their situation and through the programs provided by APSW. As a result, because of the accumulation of activities for many years, APSW has a system and environment that can comprehensively solve all women's problems. Also, the consciousness of problems between the organization and the staff was consistent. They are working not only to solve Gender Based Violence but also to foster prevention and awareness of violence. About women, it turned out that they came to APSW and take a variety of programs and received considerable influence. But this is not only benefit by programs. Some of them were encouraged by their social worker and got motivated to go and go to school. Another woman also decided to live independent lives with her children by earning income. Women's empowerment was seen by the life in APSW.

2. 現地調査期間：2018年8月2日～8月30日

3. 調査背景

(1) タイの NGO について

今回調査を行った APSW は 1974 年から 30 年以上に渡り、暴力の被害者である女性や子どもを、組織の運営するシェルターハウスへ保護し、被害者の問題解決と社会復帰のための活動を行う NGO であり、タイにおいて女性への暴力撤廃活動をリードする存在である。以下ではタイ国内の NGO の現状と、国内のジェンダー関連の組織について、そして、現在のタイ国内で議論されている女性への暴力について記し、APSW の活動内容と支援を受けている女性について説明する。

① タイの NGO の現状

重富による研究（2001）では、1992 年以降、タイの政治制度改革により、民主化の動きが急になり NGO も推進者となった。1991 年に当時の首相が NGO を奨励する姿勢を打ち出したため、社会に広く知られ、肯定的に評価されるようになった。1997 年時点で、名簿に載っているだけでも 465 団体ある。事業内容としては、調査や開発支援分野を行う NGO が多くなっているが環境や子ども関連の活動も顕著である。女性の活動を行う NGO は全体の中で 10%弱である。資金源については海外からの資金援助に依存するところが一番多いが、国内の寄付や政府からの補助金がある団体も例外ではない。政治的活動に対する NGO の態度としては、政治家に対する不信感も強くフォーマルな政治や行政の外から批判する姿勢をとる傾向が強いことが特徴である（秦 2014）。

② タイのジェンダー関連の NGO

タイ国内のジェンダー問題として、貧困女性や少女たちの労働環境が大きく議論されている。主にバンコク以外の農村貧困地域からバンコクや都市部に出稼ぎに来る女性たちの

労働状況について問題視されている (Pattamaporn 1998)。バンコクに拠点を置き、女性や女兒の教育支援を行う Prathanadee foundation は、若い未就学の女性たちが、家族のためにバンコクに移動して仕事を探すというプレッシャーに直面しており、多くの場合、彼女たちは一人の給料で家族全体を養っている状況にある、と分析している¹。女性たちは、バンコクの労働市場で仕事を得るための競争社会に巻き込まれ、職を得るために工場労働からインフォーマルセクターやセックスワークまで職業を選ぶことをいとわずにいられないことが問題視されている (パスク・糸賀 1993)。このような背景から、女性の労働環境の改善を目指した NGO や、人身売買や性的労働、労働搾取から女性や女兒を保護するための教育を行う NGO は多い。また、タイ北部では、出稼ぎ労働のために性的労働や人身売買などに巻き込まれ搾取される山岳民族などの無国籍の女性や女兒を保護する団体 (Development and Education Programme for Daughters and Community Center in the Greater Mekong Sub-Region², International Rescue Committee³など) が多いことが特徴である。

(2) タイの女性と暴力 (Gender Based Violence:GBV) について

家庭内暴力 (DV) は、タイ政府と社会によって無視された女性に対する暴力の一形態である。家庭内暴力は社会的問題ではなく家族問題であると考えられていた。しかし、多くの女性 NGO によって、家庭内暴力を受けた被害者に対する政策的な政府の支援が訴えられた。2007年11月、政府によって家庭内暴力被害者保護法が施行された。

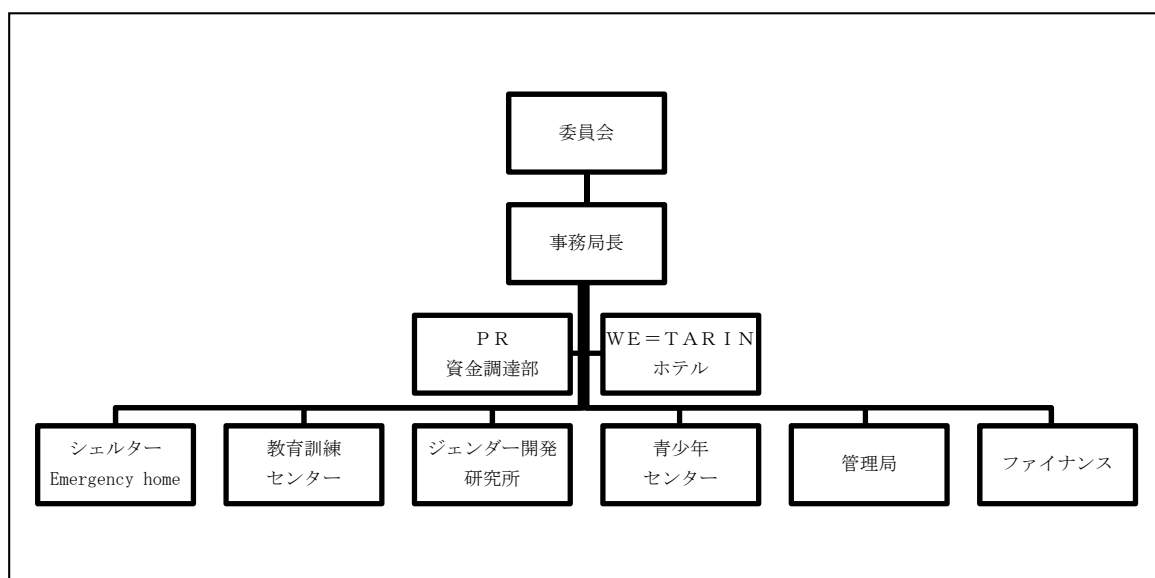
これまで信頼性のある公的文書や統計データが十分に存在していなかった問題もあり、2010-2012年には、UNDPによってタイの女性と女兒への暴力の実態と状況に関するデータの投入と共有を促進し、公的機関と私的機関による効率的で正確なデータ管理を促進させる仕組みが作られた (UNDP 2011)。これらの活動によって、GBVの問題解決ないし、女性に対する暴力の廃止 (Against Violence for Women:AVW) に向けて有用な取り組みになると期待されている。

(3) APSW について

APSW はタイにおける女性の権利の保障とタイの女性に対する差別の廃止を目的として1974年の小規模の活動から始まった組織である。今日まで、APSWの運営するシェルターハウス (Emergency home) は、タイ全国各地から来た5万人以上の女性と子どもたちを支援してきた。このシェルターハウスは一時的な避難所として、宿泊所、食糧、身体的および精神的なリハビリサービスを女性と子どもに提供している。毎日、平均で150人の女性と子どもが Emergency home にいる。APSWは主に6つのサービスがある。避難してきた妊婦女性や新生児や子どもを預かる保育施設も兼ねた診療所 (クリニック)、性暴力の被害を受けた女性への診療所である性暴力被害リハビリセンター、HIV/AIDS 陽性者へのカウン

セリングサービスや予防啓発活動を行う HIV/AIDS に対する取り組み、女性の自立と収入獲得のための職業訓練を提供する女性の教育訓練センター（WE-TARIN）、若者へジェンダー平等や、薬物・酒などの関わり方を指導する青少年センター、ジェンダー開発研究所を持っている。一方、組織の機能としては表 1 の通りである。意思決定レベルのトップは委員会、実務レベルでは事務局長がトップである。以下はファイナンスや管理局、PR などのバックオフィスと、シェルターハウスや、ジェンダー開発研究所、教育訓練センターなどのサービスごとに区分されているほか、組織の収入源として運営される WE-TARIN インターナショナルハウスというホテルで構成されている。

表 1. APSW 組織図



出典：組織の情報提供に基づき、筆者作成

① APSW のスタッフについて

滞在時（2018年8月）時点で、Emergency home の女性や子どもと関わるスタッフは 22 人いた。それらはソーシャルワーカーと、ソーシャルワーカーアシスタント、心理学者と、子どもたちの保育所である Children home のスタッフ、新生児・乳児の保育所である Nursery home のスタッフで構成されている。社会福祉に関わるスタッフは 18 人いて、そのキャリアは 3 年～28 年に及ぶ。

② APSW で支援を受けている女性について

2017 年度のレポート 4 によると、2017 年度は、1,232 人の女性と子どもが APSW に助けを求めた。このうち、263 人はシェルターでの生活、33 人はカウンセリング、771 人はホットラインカウンセリングサービスを受けており、インターネット相談サービスを受けた人も 165 人いた。シェルターに訪れた女性・子どもたちの理由としては、予期せぬ妊娠、家庭内暴力（DV）、HIV/AIDS 症例、性暴力（レイプ）被害、メンタルヘルス、子どもの保

護などが挙げられる。一番多かったのは家庭内暴力事件（DV）で 91 件であった。大部分はパートナーによる身体的・精神的虐待であった。それらには夫のアルコール中毒や薬物乱用などの問題が見られ、女性への暴力と同様に子どもへの暴力も多く見られた。また、予期せぬ妊娠によって避難してきた女性のうち 20 才以下の女性・少女の割合は 30%に及ぶ。

滞在時（2018 年 8 月）時点で、シェルターハウスにいる女性と子どもは 61 人であった。年齢層は 0 歳～8 歳が 30 人、9 歳～18 歳が 9 人、19 歳以上が 22 人であった。ケースの特徴としてほとんどに DV 被害がみられた。女性たちは妊婦であった人が 9 件、母子が 8 件、HIV が 6 件あった。

4. 調査目的

本調査の目的は二点ある。第一に、APSW の役割と活動成果を考察し、NGO がどのように女性たちと関わり彼女たちのエンパワーメントに寄与しているかを明らかにする。これはボランティア業務を通して、NGO の組織役割を分析し、タイ社会における NGO の活動意義が如何なるものかを明らかにする。また、NGO 職員のインタビューを通して、タイ社会が直面する女性への暴力や女性の地位向上に対する活動の現状や問題点を明らかにし、NGO とタイ社会、また NGO とエンパワーされる女性たちの関係性がどのようなものであるべきかを考察していく。

第二に、暴力を受けていた女性が、APSW のさまざまなプログラムを受け、力をつけていく過程で得た変化を考察することである。このために、女性たちがどのような人と関わり、どのような情報を得て、どのような力（技術）を身に着けることでこれまで持っていた選択や考え方を変化させ、別の行動や別の選択を志向していったのかを聞きだす。

5. 調査方法

2018 年 8 月 2 日から 8 月 30 日まで、タイ・バンコク市のドンムアンにある APSW の施設にて参与観察とインタビュー調査を行った。普段は施設でボランティアを行い、女性たちが職業訓練を行うセンターで職業訓練を一緒に受けたり、女性たちの子どもを日中預かっている保育所で子どもたちの世話をしたり、食事を一緒に食べたりなど APSW で暮らす女性やスタッフと同じ生活を送り、関係構築に努めた。調査の対象者はスタッフ 5 人（事務局長であるディレクター 1 人、ソーシャルワーカー 4 人）と、ケース女性 9 人（現在 APSW にいる女性 6 人、昔 APSW にいて今は自立している女性 3 人）の計 14 人で、ケース女性についてはスタッフから紹介してもらい、質問票に基づいた半構造化インタビューを行った。主な質問内容はスタッフには①どのように暴力の問題がタイ国内で変化しているか②女性たちとどのように向き合っているかである。ケース女性に対しては①APSW に来る前と後の変化②APSW で受けているプログラムについて聞き取りを行なった。

6. 調査結果

(1) APSW の組織的役割

聞き取り調査や、ボランティア活動による参与観察によって APSW は組織体制がしっかりと確立されていることから、豊富なプログラムや満足度の高い活動を行っており、それが女性たちのエンパワーメントに深く寄与していることが分かった。そこには以下の 2 つの理由が大きく関係していることが判明した。

① あらゆる問題に包括的に対応できる環境

APSW に避難してくる女性や子どもたちには、各々様々な問題を抱えている。APSW は主に①食料・寝床の供給②カウンセリングや診療による身体的・精神的ケア③自立のための勉強会や訓練を提供している。ケース一人一人に専属のソーシャルワーカーが付き、個人の抱えている問題解決に向けて働きかける。APSW には心理学者も一緒に暮らしており、ささいな精神面での変化も相談できるような環境が整っている。女性たちがソーシャルワーカーや心理学者を信用していることが聞き取りからもうかがえ、きちんとした信頼関係が構築されていることがわかった。また、法律家とも連携しており、法的手段での解決に向けた環境も整っている。組織外との連帯もとれており、警察や、教育専門家と連携して女性が避難できる道筋を作り、若い世代に向けたジェンダー平等の教育を行うなど、女性や子どもに対する暴力を防ぎ、しっかりと問題を抱えた女性たちが保護されるような環境を作っている。これは APSW の長年の活動の蓄積であり、少しずつ活動範囲を広げ、多くの女性と向き合ってきたことで様々なケースに包括的に対応できているとスタッフは認識していた。

② スタッフの問題意識の共有と APSW に対するコミットメント

スタッフに対して、現在の女性に対する暴力の状況を聞くと全員が「状況は改善していない。むしろ複雑化している。」と答えた。特に近年では男性が女性に振るう暴力だけではなく、家族による暴力によって、子どもの被害者が増加している。背景には、加害者の違法薬物の使用やアルコール中毒による社会問題も絡んでいる。APSW が抱えている課題として、起きた問題に対処することはできても問題を未然に防ぐことに課題意識を持っているスタッフが多かった。組織がこれから力を入れるべき活動として、問題が起きないように予防・啓発活動を行うことが一番大切であるという意見が多かった。近年 APSW では若者に対するジェンダー平等の講演会をバンコク市内の小・中学校で行っている。暴力を振るう人がしばし持つような「力を持つものが何をしてもいい」というステレオタイプを植え付けさせないために早期での教育が必要であると感じているからだ。また、スタッフの APSW へのコミットメントも特筆すべきだ。インタビューを行ったスタッフは全員中途入所であるが、何かしらの理由で以前から APSW を知っていた。入所した理由を聞くと、「以前から人助けがしたいと思っていたから。自分一人ではできる事が少ないので組織に入った。」という声や「教育実習のプログラムで以前 APSW を訪問したことがあったから。ポストが空いたら働きたいと思っていた。」という声が挙がった。以前の職場は民間企業や、学校の教師など現

在の職種とも異なる人が多かったが、子どもや女性を助けたいという気持ちで職場を変え、APSW で働くことを決めた人は多かった。そして、そのようなスタッフが親身に相談に乗ってくれて、問題解決のために働きかけるため、あるケース女性にとっては、ソーシャルワーカーがロールモデルとなっていることも分かった。

(2) 女性の変化、エンパワーメント

① かつて **Emergency home** にいて、現在は自立している人

元ケースとして 3 人の女性にインタビューをおこなった。彼女たちは現在 36 歳～50 歳で 27 年前～6 カ月前に、それぞれ強制売春や経済的困窮など様々な問題で過去に APSW に来た。彼女たちは、現在 APSW の一員として働いている。ふたたび APSW に戻った理由として、「APSW に恩返しをしたいから」と答えている。現在彼女たちは経済的に自立してそれぞれの生活を送っている。職業訓練のとあるコースの教師を担当している女性は、「今はコースの教師をしているけれど、私の自立は、APSW にいたときに受けた訓練によってスキルを身に着けたからではない」と言っていた。戸籍がなく ID カードがなかった彼女は学校に通えなかったがどうしても勉強したいという思いを持ち、その願いを当時のディレクターが政府や教育機関に説得してくれたため ID カードを取得して、学校の課程を修了できた。「自分はずっと一人だと思っていたけれど、自分のためにここまでやってくれる人がいることで自分が孤独ではないと分かり、感動した」と語る。他の女性も子どもや家族のために頑張りたいという気持ちを持っており、「早く娘と一緒に自立した生活を送ることを目標にして自立のために計画を立てて過ごしていた」と語る女性は、APSW に来てからプログラムや職業訓練に参加してそのコースの収入で少しずつお金を貯めて、娘と一緒に外でアパートを借りて新しい生活を送るようになった。現在は、当時受けていた職業訓練のコースの助手となり自立することができた女性も、「ただスキルを身に着けたから自立できたのではなくて、APSW にいたときに心を落ち着かせる呼吸法のトレーニングを受けることや、仏教の教えを勉強したことによって、自分のメンタルをコントロールできるようになり、安定した生活が送れるようになった」と話す。

② 現在、**Emergency home** にいる女性

現在シェルターにいる女性 6 人に聞き取り調査を行った。彼女たちは 15 歳から 29 歳で、2 年前から 1 カ月半前にそれぞれ APSW に来た。理由としては、予期せぬ妊娠がほとんどで、家庭内暴力 (DV) により避難してきた人もいた。中には出産後、学校に通っている女性もおり、学校の勉強が終わると生活を送っている **Emergency home** に戻り、日中施設内の保育所に預けていた子どもを引き取り、部屋に戻って子どもと過ごすという生活を送っている女性や、出産を控え APSW で生活している女性である。APSW で暮らす女性たちは表 2 のような健康的な生活のサイクルを送っている。

表 2. シェルターの女性たちの生活サイクル

AM5:00	起床
AM6:00	掃除やシャワー、身支度などを行う
AM7:00	朝食
AM8:00	ランチの準備や掃除など自分の担当の仕事を行う
AM11:00	ランチ
PM1:00	アクティビティやプログラム、セラピーなど
PM4:30	夕食
PM6:00~	自由時間、就寝

出典：聞き取りに基づき筆者作成

このような健康的な生活サイクルを行うことには女性たちが健康的な生活を取り戻し、同じ日常を送ることができるようになるという狙いがある。女性たちも健康的な生活や割り振られた仕事を行うことで、「自分で自分のことができるようになった」や、「きちんと朝に起きて食事を摂り、ちゃんとした時間に寝ることで具合がよくなり気分もよくなった」という変化を感じていることが分かった。

また、受けているプログラムやアクティビティは個人の興味や状況によって異なるが、6人中、学校に通っている2人を除き4人が何かしらの職業訓練を行っていることが分かった。職業訓練を楽しんでいることは判明したが、具体的に将来の自分の仕事に繋がたいと考えている人はいなかった。将来の夢やこれからの展望について聞くと、出産を控えている女性からは、もともと仕事をしていた職場への復帰を望む声や、妊娠によって途中で行けなくなった学校に通いなおしたいという声があった。子どもが既にいる女性からは、学校を卒業し、子どもと一緒に実家に帰りたいという声や、まだわからないという声があった。特徴的であったのは、大卒以上で就業経験のある26歳以上の女性は、これまで所持していた車を売ったり、貯蓄をしたりなど出産後の育児に備えた準備をおこない、将来に関しても、やりたいことや夢を語るのではなく、子どもの教育などのため、何をすべきかを考えた「子ども」が主語の将来設計をしていた。一方で19歳以下の女性は、自分の将来の夢を持っていて主語が「自分」である事が特徴的だった。一方で、「学校に通っているだけで精一杯なのでまだわからない」という声もあった。



写真1. 女性たちが暮らすシェルターハウス
ご飯を食べたりアクティビティをおこなう。



写真2. 子どもたちのいる保育所の様子。国内外から沢山の人がチャリティーで訪れる。

写真1.2ともに筆者撮影

表 3. シェルターハウスにいる女性の属性・状況

名前	年齢	ステータス	避難理由	受けているプログラム等について	将来について
A	15歳	母/学生 娘1歳	避難理由 滞在数 予期せぬ妊娠 2年	受けているプログラム等について 週末行われるアクティビティなど (学生のため平日は参加できない)	将来について この女性たちと話しているときが楽しい。 インテリアデザイナーになりたい。
B	16歳	母 息子1歳	夫(彼氏)からのDV 5カ月	・マッサージトレーニング ・カラオケ ・ヨガ	ここで初めて歌って、自分は歌うことができると知った。 歌う時が一番楽しかった。 これから実家に帰る。
C	18歳	妊婦	予期せぬ妊娠 2カ月	・グループカウンセリング ・母親学級 ・アートセラピー ・刺繍の縫物トレーニング	ナースになりたい。出産したら学校に戻りたい。 刺繍をしているときが楽しかった。
D	19歳	母/学生 娘2歳	予期せぬ妊娠 3年	週末行われるアクティビティなど (学生のため平日は参加できない)	娘と一緒にいるときが一番幸せ。学校が終わったら家族のいる地元に戻って、将来は山岳民族の先生になりたい。
E	26歳	妊婦	予期せぬ妊娠 1カ月半	・料理 ・造花のトレーニング ・刺繍の縫物トレーニング	以前は営業職だった。出産したら戻ってきてねと職場の人に言われた。最初は子どもをここに預ける予定。
F	29歳	妊婦	夫からのDV 2カ月	・造花のトレーニング ・アートセラピー	子どものために、まずは子どもをここに預けて働きたい。お金が溜まったら家を買って一緒に暮らしたい。

7. 考察

今回の調査によって APSW は組織的に包括されたプログラムを持ち、様々なケースに対応することが出来ていた。これは、30 年以上に渡って培われてきた活動があるからこそ可能であることが分かった。また、暴力の被害を受けた女性を保護し、問題を解決するのみならず、今後暴力が起きないように若年層へのジェンダー平等教育などの予防啓発に力を入れていることでタイ国内の女性への暴力撲滅のために中心となって活動していることがわかった。組織とスタッフの問題意識がしっかりと一致していることや、スタッフの人間性や、女性たちへの向き合い方によって信頼を得られていることから、問題解決に向けた取り組みが機能して、ひとりひとりにきめ細かいケアができるのではないかと推察する。一方で、NGO の運営における課題として、予算の問題がある。特に財源となっている寄付をしてくれるドナーとの力関係が活動に影響を及ぼしかねないと調査を通して明らかになった。

女性たちへの聞き取りからは、APSW のプログラムやアクティビティは全て、彼女たちに少しずつ何らかの影響を与えていると考える。筆者は当初、エンパワーメント（力づけ）はスキルを身に付けることが行動に変化を与えるのではないかと考えていたが、必ずしも経済的自立に直結するスキルの獲得だけではなく、歌うことができたと初めて気づくことであったり、ソーシャルワーカーが親身になってくれることに感動を受けたり、子どもへの愛だったり様々で、一枚岩ではない事がわかった。ただ、「自分は一人ではない、自分のための人生をどういう風に作っていくかに精一杯寄り添ってくれて考えてくれる」と感じられるような他者や組織がいるという事実や被受容感が、意思決定や行動を起こす起動力になっているのではないかと考える。

8. 今後の研究への展望

今回の調査は NGO の役割と女性へのエンパワーメントの影響、そして女性たちの変化にとどまったが、調査を通して気付かなかった新たな課題が見えてきた。それは予想していた以上に子どもに対する家庭内暴力・性的暴力の問題が多かったことである。シェルターに避難してきた女性も、自身の子どもに対してネグレクトをおこなうなど、暴力の問題が非常に複雑であることが分かった。筆者はボランティアで1カ月間ほとんど子どもたちと一緒に過ごしてきたので、子どもたちの母親の顔色や様子の変化に非常に敏感なところや、背の高い迫力のある大人の男性に対するトラウマなど、子どもたちも深く傷を負っていることを肌で感じた。このような子どもの状況に対してスタッフがどう対応しているのか、母子でどのように状況を乗り越え前に進もうとしているのかなどをこれから考察していきたい。

9. 謝辞

今回の調査に際し、「途上国開発・国際協力分野国際調査支援」の機会とご支援を与えてくださったグローバル協力センターの皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

10. 注

1. <https://pratthanadee.org/> (最終閲覧日 2018/09/20)
2. <https://depdcblog.wordpress.com/> (最終閲覧日 2018/09/20)
3. <https://www.rescue.org/country/Thailand> (最終閲覧日 2018/09/20)
4. <http://www.apsw-thailand.org/AnnualReport/AnnualReport2017.pdf> (最終閲覧日 2018/09/20)

11. 参考文献

- 重富真一 (2001年) 『アジアの国家と NGO—15カ国の比較研究—』 明石書店。
- パスクポンパイチット(1993年) 「タイにおける都市インフォーマル・セクター—概観」 パスクポンパイチット・糸賀滋編 『タイの経済発展とインフォーマル・セクター』 アジア経済研究所。
- 秦辰也 (2014年) 『アジアの市民社会と NGO』 晃洋書房。
- Pattamaporn Busapathumrong (1998), *Social Policy and Low-Income Working Mothers in THAILAND: The Changing Welfare Mix*, Borpit Printing.
- UNDP (2011), *Report on Gender-based Violence Against Women and Girls (VAW/G) Indicators: Office of Women's Affairs and Family Development, Ministry of Social Development and Human Security.*